

小 学 校

平成 2 5 年度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

## 目 次

研究主題	1
------	---

### 中学年分科会

I 研究主題設定の理由	2
II 研究の仮説	2
III 研究構想図	3
IV 研究の内容	4
V 実践事例	5
VI 成果と課題	9

### 第5学年分科会

I 研究主題設定の理由	10
II 研究の仮説	10
III 研究構想図	11
IV 研究の内容	12
V 実践事例	14
VI 成果と課題	17

### 第6学年分科会

I 研究主題設定の理由	18
II 研究の仮説	19
III 研究構想図	19
IV 研究の内容	20
V 実践事例	22
VI 成果と課題	24

## 児童が社会的事象を主体的に追究するための指導の工夫

平成25年4月に中央教育審議会より「第2期教育振興計画について(答申)」が発表された。そこでは、「多様な知識が生み出され、流通し、課題も一層複雑化し、一律の正解が必ずしも見いだせない社会では、学習者自身が、生涯にわたり、自身に必要な知識や能力を認識し、身に付け、他者との関わり合いや実生活の中で応用し、実践できるような主体的・能動的な力が求められている。」<sup>1</sup>と表現されている。社会は、グローバル化や情報化の進展などにより、予想を超えたスピードで変化し、多様化が一層進んでいる。この変化に対応していくには、自らが主体的に問題を解決していく力が求められている。主体的に問題を解決し知識や能力を習得し活用していくことで、学習者の自立が図られ、協働、創造と相まって、生涯学習社会を形成していくことが期待されている。

そこで本部会では、主体的に追究するという点に着目し、社会科の学習においてその姿を「自ら社会的事象に関心をもち、意欲的に調べ、意味を考え表現すること」と定めた。ここでは問題解決に向け、意欲的に調べるとともに、学習を振り返って、思考・判断したことを表現する学習過程が重要であると考えた。そして、児童を主体的に追究させるためには、学習を振り返り、社会的事象の意味を考える段階まで追究意欲が持続する手だてが必要である。

その手だてとして、本部会では、「各教科の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。」<sup>2</sup>とされていることを受け、見通しと振り返りという学習活動に焦点を当てることとした。見通し及び振り返りの活動を計画することで自主的に学ぶ態度を育むことは、学習意欲の向上に資するものであると共に、学習内容の確実な定着が図られ、「思考力・判断力・表現力等の育成」にも資するものであると考える。しかし、実際の我々の社会科の授業では、問題解決の見通しをもつ活動についての実践が多く行われているわけではない。学習問題を見いだす活動は主体的であっても、調べる活動になると見通しがもてずに児童の意欲が低下してしまう場面がある。そのため、社会的事象の意味を考えるために振り返る活動が十分に行われていないという実態が見られた。そこで、学習問題に対して、内容や方法から学習の見通しを立て、それに沿った振り返りができれば、児童の主体的な追究につながると考えた。

実際には、それぞれの学年の学習内容を考慮して、分科会で見通しや振り返りの活動の重点を定め研究を進める。そして、主体的に追究するために必要な教材を開発し、追究の見通しをもたせる手だて、振り返って社会的事象の意味を考え表現させる手だてなどについて、検討を重ねることとした。

以上から、本部会では、今期の研究テーマを「児童が社会的事象を主体的に追究するための指導の工夫」と設定した。

<sup>1</sup> 中央教育審議会平成25年4月25日「第2期教育振興計画について(答申)」 「社会を生き抜く力の養成～多様な変化の激しい社会での個人の自立と協働～」より抜粋

<sup>2</sup> 文部科学省平成20年3月『小学校学習指導要領 総則』

## 児童が見通しをもって主体的に追究し、 よりよい地域社会の発展を考えるための指導の工夫

### I 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領社会には、第3学年及び第4学年の態度に関する目標として「地域社会の一員としての自覚をもつようにする。」「地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」とある。この目標を実現するためには、児童が主体的に知識及び技能を習得し、社会的事象を追究していくことが重要であると考えた。

しかし、本分科会で児童の実態を調査したところ、社会的事象を追究する意欲が最後まで持続しない児童が多い、地域社会の一員としての意識をもって社会的事象を捉えることができている児童が少ないという実態が明らかになった。この実態を受け、児童の追究意欲を持続させ、自分も地域社会の一員であるという当事者意識をもたせるためには、児童に社会的事象を追究する際の「見通し」を具体的にもたせること、学習してきた内容を「振り返り」、地域の人々の働きや、生活との関連について考えさせることが必要であると考えた。

そこで、本分科会では、研究の内容を「児童が見通しをもって追究するための指導の工夫」及び「児童が社会的事象について当事者意識をもって考えるための指導の工夫」と設定した。

「児童が見通しをもって追究するための指導の工夫」では、小単元全体の学習の見通しを立てる学習活動を効果的に指導計画に位置付けた。また、小単元全体の学習の見通しを「学習計画」として表すことにした。この「学習計画」は、単元を貫く「学習問題」と、それを解決するために細分化された「小問題」、さらに実際に調べる時の「追究の視点」を、児童の予想などをもとに作成していくものである。「学習問題」「小問題」「追究の視点」を解決の順に並べて児童へ示すことで、小単元を通した学習の流れを確認することができ、児童は見通しをもって主体的に学習できると考えた。

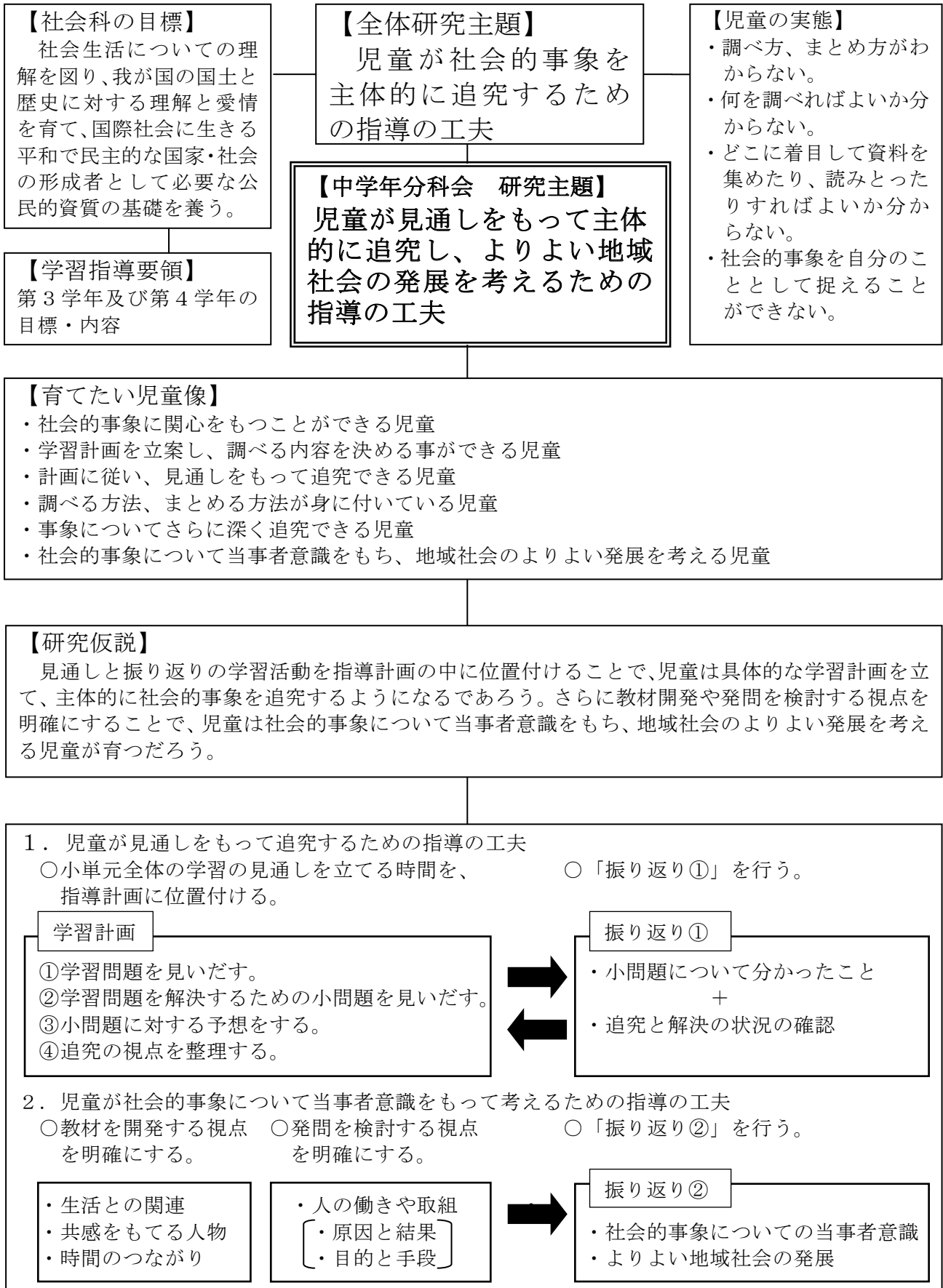
「児童が社会的事象について当事者意識をもって考えるための指導の工夫」では、教材を開発する視点及び、発問を検討する視点を明確にすることに重点を置いた。教材の開発では、児童が社会的事象に当事者意識をもつことができるように、「地域で活躍する（共感をもてる）」、「生活との関連が見える」、「時間のつながりが見える」という視点から教材の開発を行った。そして、その教材を基に、社会的事象の背景にある「人の働きや取組」に着目できるような発問を検討した。このように、教材を開発する視点と、発問を検討する視点を明確にして、児童に示すことで、児童は社会的事象について当事者意識をもてるようになり、さらには、社会的事象の意味や、よりよい地域社会の発展について考えることができると考えた。

全体の研究主題と以上の内容から、本分科会では研究主題を「児童が見通しをもって主体的に追究し、よりよい地域社会の発展を考えるための指導の工夫」とした。

### II 研究の仮説

見通しと振り返りの学習活動を指導計画の中に位置付けることで、児童は具体的な学習計画を立て、主体的に社会的事象を追究するようになるであろう。さらに教材開発や発問を検討する視点を明確にすることで、児童は社会的事象について当事者意識をもち、地域社会のよりよい発展を考える児童が育つであろう。

### Ⅲ 研究構想図

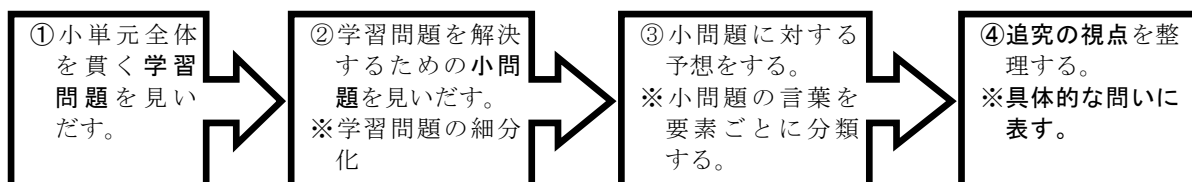


#### IV 研究の内容

##### 1 児童が見通しをもって追究するための指導の工夫

○ 小単元全体の学習の見通しを立てる学習活動を、指導計画に位置付ける。

小単元の「つかむ段階」で見いだした「学習問題」を児童が主体的に追究するために、指導計画に小単元全体の見通しを立てる学習活動を位置付けた。この学習活動は、児童一人一人が調べる内容と方法を具体的につかめるようにすることをねらいとしている。この小単元全体の学習の見通しを「学習計画」に表すこととした。



このように、「学習計画」を基にして学習の流れを示すことで、児童は見通しをもち、追究する内容を明確にしなが、主体的に追究することができる考えた。

○ 「振り返り①」を行う。

小問題を解決するごとに「振り返り①」を行うことで、児童に学習問題の追究と解決の状況を意識させることができる。また、追究と解決の過程を振り返る中で、児童が新たに見いだした疑問は、解決の必要性を検討した上で、新たな小問題として「学習計画」に加えていくこととした。

##### 2 児童が社会的事象について当事者意識をもって考えるための指導の工夫

小単元の「まとめる段階」において、それまでに習得してきた知識及び技能を生かして、社会的事象について当事者意識をもって考えられるようにした。その際に重視したことが教材と発問である。

○教材を開発する視点を明確にする。

児童が社会的事象について当事者意識をもって考えることができるようにするために、以下の視点を基に、教材を開発した。

◇生活との関連 ◇共感をもてる人物 ◇時間のつながり（過去から現在、そして未来）

○発問を検討する視点を明確にする。

上の教材を用いて、児童が社会的事象の背景にある「人の働きや取組」に着目することができるように、◆原因と結果 ◆目的と手段 という2つの視点を基に発問を検討した。

※実際の授業で行った発問

○ どうして、上水として使われなくなった玉川上水を復活させたのだろうか。（目的と手段）

（玉川上水を復活させたという手段を示して、その目的を問う→人の働きが見える）

○ 7年の間に最終処分場の残りの年数がのびたのはなぜか。（原因と結果）

（残余年数が延びたという結果を示して、その原因を問う→人の働きが見える）

○ 「振り返り②」を行う。

以上の教材と発問を用いて「振り返り②」を行うことで、児童は小単元全体を通して、社会的事象について当事者意識をもてるようになり、さらには社会的事象の意味や、よりよい地域社会の発展について考えることができる考えた。

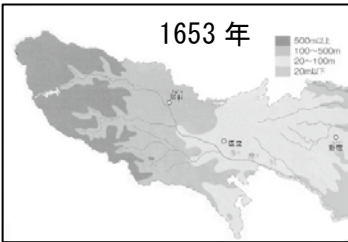
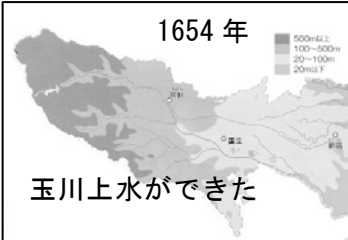
V 実践事例1 <児童が見通しをもって追究するための指導の工夫>


「玉川上水と玉川兄弟」【第3学年及び第4学年内容(5)ウ】

(1) 小単元の目標

玉川上水に関心をもち、玉川上水の工事の様子や工事に使った道具などについて、資料を活用して調べ、玉川兄弟の苦心について考える。

(2) 実践(全10時間)

	ねらい	○主な学習活動	研究の内容(1)(2)との関連 ・児童の反応
つかむ 2時間	提示資料を読み取った時の疑問から、学習問題と小問題を見いだす。①	○資料を見て、疑問点を挙げる。   玉川上水ができた	(1)学習計画の作成 <u>資料を読み取った児童の発言や疑問</u> ・たった8か月でできたの！? ・どうやってつくったのだろう。 ・なぜつくったのだろう。 ・玉川上水は玉川兄弟がつくったんだ。 ↓ <u>児童の疑問から学習問題を見いだす</u> <u>学習問題</u> 玉川兄弟は、なぜ、どのようにして玉川上水をつくったのだろうか。 ↓ <u>問題を細分化して小問題をつくる</u> <u>小問題①</u> 玉川兄弟はどのような人物なのだろうか <u>小問題②</u> 玉川兄弟は、なぜ玉川上水をつくったのだろうか。 <u>小問題③</u> 玉川兄弟は、どのようにして玉川上水をつくったのだろうか <u>小問題①の予想</u> ・仕事熱心・えらい人・あきらめない人・人のために何かやろうとする人・貧しい生まれ・農家・ちょんまげ・着物 <u>小問題②の予想</u> ・田畑に水をやるため・日照り続きで水がなかったから・川が少ないから・江戸を水不足にならないようにしたいから・殿様に命令されたから <u>小問題③の予想</u> ・村の人と一緒に工事をした・土を掘った・シャベルの大きい物を使った・鉄の道具を使った・地下水を使った・川から水を引いた・1回では成功しなかった
	予想をもとに具体的な学習計画を立てる。②	○班ごとに予想を交流し、班としての予想をまとめる。 ○班ごとの予想をクラスで交流し、分類する。 ○分類された予想をもとに、小問題を追究する視点をつくる。 ○立案した学習計画で学習問題の解決がうまくできるか振り返り、ノートに記述する。(振り返り①)	<u>小問題①の追究の視点</u> ・職業を調べる ・人柄を調べる ・格好を調べる <u>小問題②の追究の視点</u> ・水不足の原因を調べる ・玉川上水をつくると、誰が言い出したのか調べる <u>小問題③の追究の視点</u> ・道具を調べる ・水路を調べる ・工事をした人を調べる ・工事の苦勞を調べる

	ねらい	○主な学習活動	研究の内容(1)(2)との関連 ・児童の反応
調べる	[小問題①] 玉川兄弟の職業や人柄などについて、資料を選択して具体的に調べる。③	○調べる視点について、教科書や資料を使って調べる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>目次に「玉川兄弟の仕事」と書いてあるから、この本で調べてみよう。</li> <li>分かったこと→・農民か町人だった・着物を着ていた分らなかったこと→・人柄</li> <li>問題解決にほんの少しだけ近づけたと思う。理由は仕事や人柄も少しだけなら調べることができたから。</li> </ul>
調べる 5時間	小問題②] 玉川上水は、当時の江戸の人口が急増したことによる生活用水の確保のためにつくられたことを理解する。④	○調べる視点について、教科書や資料を使って調べる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">           追究を通して新たに生じた疑問をもとに、新たに小問題④を設定した。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸の町は急に人口が増え、生活に必要な水が足りなくなっていた。</li> <li>玉川上水が完成しただけでは、江戸の水不足を解決できないと思う。</li> <li>玉川上水の水を、江戸の人たちはどうやって使ったのだろう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <b>小問題④ 玉川上水ができたあと、どのようにして江戸のまちの水不足を解消したのだろうか。</b> </div>
	小問題③] 工事の道具や方法、大変さを理解する。⑤ 羽村から水を取り入れている理由を理解する。⑥ 小問題④] 玉川上水とその分水が、広い範囲で生活向上に役立っていたことを理解する。⑦	○調べる視点について、教科書や資料を使って調べる。   <p>※江戸時代の分水の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事では「かご」や「もっこ」などを使った。(道具)</li> <li>工事のために、武蔵野、奥多摩、秋川の村の人たちが呼び集められた。(人)</li> <li>水は羽村で、多摩川から引いている。他の土地からだ土がよくなかった。(水路)</li> <li>工事は2度失敗している。92mの高低差しかないので大変だった。玉川兄弟が3000両を出資した。(苦勞)</li> <li>予想通り、新しく水を引いたところがあった。</li> <li>四谷から先は、地下に「とい」をはりめぐらして水を届けた。今の水道管みたいだ。</li> <li>分水の周りに集落が増えた。</li> </ul>
まとめる 3時間	学習問題に対する自分の考えをまとめる。⑧	○学習計画やこれまでに調べた事柄を振り返り、学習問題に対する自分の考えを、ニュースのように小見出しを付けてまとめる。	(まとめの例) <ul style="list-style-type: none"> <li>「ついに完成！」玉川兄弟は、工事の失敗やお金が足りなくなって自分の家を売るなど、苦勞があったけど江戸の人たちのために、あきらめずにがんばり、とうとう玉川上水を完成させた。</li> </ul>
	約360年前に作られた玉川上水が、今もなお一部上水として使用されていることや、多くの人たちの努力により現在の玉川上水があることを理解する。⑨ 単元のまとめ⑩	○玉川上水は、現在は一部分が上水として使用していることと、残りは上水として使われていないことを知る。 ○玉川上水が使われなくなっていった経緯や、玉川上水を残そうとした人たちの努力について、実際に関わっている人の話や文献などから調べる。 ○これまで学習してきたことと玉川上水の現在を考え、文章でまとめる。(振り返り②)	(2)一部分しか上水としての機能が残っていないにも関わらず、玉川上水に今も水を流していることの意味を考える。 (東京都水道局の人の話の概要) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             昭和40年に村山浄水場ができたことにより、玉川上水の水は小平監視所までで止まりました。しかし昭和48年に、玉川上水からの分水である野火止用水復活の声が地域からあがりました。そして昭和57年に清流復活事業が発足。昭和61年には玉川上水にもきれいな水が再び流れ始めました。現在、玉川上水を維持するのに毎年約1億円の費用がかかっていますが、地域の人たちが身近に水辺空間を親しんでくれて、よかったと思っています。           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>玉川上水に水を流すのに、大変な工事をしていながら知らなかった。</li> <li>昔につくったものを今も大切に残していくのは大変なのだと思った。</li> <li>玉川上水にはまだまだ分からないことがたくさんある。これからもっと調べてみたい。</li> </ul>



VI 実践事例2 <児童が社会的事象について当事者意識をもって考えるための指導の工夫>

「わたしたちのくらしとごみ」【第3学年及び第4学年内容(3)アイ】

(1) 小単元の目標

地域の人々の生活に必要な廃棄物の処理について、清掃工場を見学したり、資料を活用したりして調べ、廃棄物の処理にかかわる対策や事業は計画的、協力的に進められていること、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを考える。

(2) 実践 (全14時間)

	ねらい	○主な学習活動	研究の内容(1)(2)との関連 A～D児の反応
つかむ 2時間	ごみを分別して出している意味を考え、ごみの始末に関心をもつ。①	○ごみを「出す」時の「出す」の意味を考える。 ○学習問題の言葉を話し合って決める。	(2) ごみを「出す」ことの意味から社会的事象であることを確認し、関心を高める。 (1) 出したごみが、その後「誰が」「どのように」しているのか疑問をもてるようにする。
	<b>わたしたちが出したごみは、どのようにして始末されるのだろうか？</b>		
調べる 10時間	学習問題の解決のために調べて確かめることを検討し、追究する見通しをもつ。②	○学習問題の解決のために調べて確かめることや調べる順序を話し合い、学習計画をつくる。	(1) 学習問題の「どのような」を細分化し、解決するために調べて確かめることを予想し、それを基に話し合い、内容を検討する。 <b>学習問題</b> 私たちが出したごみは、どのようにして始末されているのだろうか？
	出したごみが、種類ごとにそれぞれの施設に運ばれて処理されることが分かる。③	○出されたごみがどこに運ばれるかを調べる。	①集められたごみは、どこに運ばれているか？
	出したごみは、決められた曜日・ルートに従って計画的に収集されることが分かる。④⑤	○自宅のごみ出しの曜日を調べ、白地図に表す。	②集められたごみは、誰がどのようにして始末しているのか？ ③渋谷清掃工場や23区の清掃工場はどのような仕組みだろうか？
	ごみの分別は、地域の人々の話合いによって決められていることや分別の仕方は地域によって違いがあることが分かる。⑥	○ごみ分別のきまりを読み取る。	④ごみ分別の仕方は、誰がどのようにして決めたのか？ ⑤埋め立て処分場はどのような仕組みだろうか？
	渋谷清掃工場での燃やすごみの始末の仕方、23区の清掃工場が協力して燃やすごみを始末していることが分かる。⑦	○23区の清掃工場の地図を見て話し合う。 ○渋谷清掃工場の燃やすごみの始末の仕方を調べる。	⑥回収された資源は、どのようにして再利用されるか？ ⑦埋め立て処分場がいっぱいになる50年後より先のごみは、どのように始末するのか？
	ごみの最終処分場である、新海面処分場の位置や仕組みが分かる。⑧	○埋め立て処分場の位置や仕組みを調べる。	<b>学習のまとめ</b> 未来のために私たちがすべきことは何か？ <b>【予想】</b> Aごみを出すと、ごみを収集する車が取りに来てくれて、清掃工場に持って行ってくれる。 Bごみ出しと収集の曜日と時間は、自治体ごとに決められている。 C最終処分場がいっぱいになったら大変なので、どんどんリサイクルを進めればよい。 D回収された資源は、それぞれの素材ごとに工場に運ばれ、リサイクルされる。など (1) 立案した学習計画に即して追究する。 <b>【振り返り】</b> A燃やすごみは、ごみ収集車が清掃工場に運

	回収された資源が、物質ごとに分類され処理されて再生品になることが分かる。⑨	○それぞれがどこに運ばれ、処理されるかを調べる。	び、粗大ごみや燃やさないごみ、資源は収集車によってそれぞれの場所に運ばれ処理される仕組みになっていました。
	ごみの始末や分別に関するきまりや区や23区のごみの量の変化が分かる。⑩	○ごみの始末・分別に関するきまりを調べる。 ○東京23区と東京都から出されるごみの量の変化を調べる。	B ごみ出しのきまりは自治体ごとに決められていて、燃やすごみの曜日は地区ごとになっていました。
	ごみ減量のための取組を調べ、これからの在り方について考える。⑪	○ごみの分別の細分化の取組や東京都のごみ出しの有料化について調べる。	C ごみ始末にはお金がかかっていた。毎日たくさんのごみが出るから大きな金額になります。埋立処分場をつくる場所をどこにするか、お金の問題など、簡単ではないと思いました。
	最終処分場の残りの年数が、7年前の30年が現在の50年になった背景にある仕組みや取組、地域の人々の協力の意味を考える。⑫	○最終処分場の残りの年数が伸びた理由を話し合う。 ○地域の一員としての在り方について考える。	D 資源は、粗大ごみや燃やさないごみからも中間処理として回収する仕組みになっている。リサイクルには、もっとお金がかかります。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>教材</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>資①</b> わたしたちの東京 (H17・2005年) 埋立処分場の残りはあと30年         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>資②</b> わたしたちの東京都 (H24・2012年) 埋立処分場の残りはあと50年         </div> </div>		(2) 地域のごみの問題の解決に取り組む地域の人々の働きに目を向け考える。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>発問</b> 7年間に最終処分場の残りの年数がのびたのはなぜか？         </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 20%;"> <p>○地域の人々がきまりを守ってごみを出したから</p> <p>○みんながきちんと分別したから</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 20%;"> <p>○清掃工場が増えて、きちんと燃やせるようになったから</p> <p>○清掃工場の燃やす技術が高まって、ごみをより小さくできるようになったから</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 20%;"> <p>○リサイクルできる品物が増えたから</p> <p>○法律が厳しくなったから</p> </div> </div>		<b>【予想】</b> A 清掃工場が増えて、燃やすごみをきちんと燃やして灰にしてから最終処分場に運んだからだと思います。 B 清掃工場の燃やす技術が高まったからだと思います。 C みんながごみを捨てる量を減らしたからだと思います。 D 埋立処分場の残りの年数が長くなったなんて信じられないです。 <b>【振り返り】</b> A 清掃工場の数が増えたことが理由でした。けれど、地域の人々がきちんと分別したことも確かに大きな力になったと思います。 B 清掃工場の技術は、より小さく少なくすることでした。それが高まったからというのはやっぱり間違いなかったし、資料にもそう書いてありました。 C 清掃工場のことや法律のことがあったけれど、やっぱりみんなの力が大きいことが分かりました。 D 予想外のことばかりです。いくつかある理由のうち、ぼくは法律が厳しくなったことがとても重要だと思っています。
<b>まとめる</b>  <b>2時間</b>	これまでの学習をまとめ、地域の人々として協力すべきことを考え、学習をまとめる。⑬	○伝えたいことをまとめ、ポスターを作成する。	(2) 学習したことを伝えるための作品を作る。
	学習したことを作品にまとめ、自分たちのかかわり方考える。⑭	○作成したポスターを交流し、学習全体を振り返る。	A ごみを減らす取組は計画的に進められ、よくなっていたので、もっと協力したい。 B 今ある分別のきまりを一人一人がきちんと守れば、未来をつくることになる。 C 仕組みがしっかりしているので、きちんと分別して、もっとリサイクルしたい。 D ごみをなくすのは無理だから、この問題はこれからもずっとぼくたちの生活に関係してくる。これからはどうなるか心配だ。

## VII 成果と課題

### 1 研究の成果

- 小単元の初めに学習の見通しを立てる学習活動を位置付け、児童から出された予想をもとに、追究の視点を明確にしたことで、児童は調べる対象を具体的に絞り、主体的に調べ学習に取り組むことができた。
- 「振り返り①」を行ったことで、児童は学習問題に常に立ち返り、追究と解決の状況をとらえ、学習問題を解決する過程で、新たな小問題を見いだすなど、見通しをもって社会的事象を追究することができた。

・どうやって玉川上水をつくったのかが分かった。43kmもの長い距離を人の手でつくったなんてすごいと思った。でも、どうやって江戸全体に水を届けたのか疑問が残った。次回はそのことを調べたい。

・玉川兄弟の仕事にはいろいろな説があってはっきりしていないから、もっと詳しい資料が必要だと思う。  
(実践事例1より)

- 社会的事象について当事者意識をもって考えるための指導の工夫を行ったことで、児童は地域社会のよりよい発展を考えることができた。

・自分たちにすべきことが、これまで分かっていなかったことに気付きました。難しい問題でも、わたしたちが協力して頑張れば、解決してきたということです。これはわたしたちにも解決できるということです。まず、わたしたちは、今ある決まりをきちんと守ることが大切なのだと思います。

・たくさんの人々が協力した結果が、今の「残り50年」であることがわかりました。工場の技術が発達したことも数を増やしたことも、みんなの問題の解決のための努力でした。だから、わたしたちが地域で協力し合ってこれからも頑張るのだと思います。  
(実践事例2より)

### 2 研究の課題

- 調べて分かったことを、自分が立てた予想と比較して振り返る児童が少なかった。調べ学習の際にも、常に自分の予想と比較できるように、板書や掲示を工夫する必要があると考えられる。
- 多くの児童は、問題解決の際に観察・調査の段階で直接見学をしたり、人から話を聞いたりして、強く印象に残った情報・知識を根拠に考える傾向がある。そのため、仕組・法や決まりのように、様々な資料の読み取りによって得た情報・知識を活用して考えようとする児童が少なかった。

「わたしたちのくらしとごみ」第12時 7年の間に最終処分場の残りの年数が延びたのはなぜか？					
根拠	地域の人々の取組	清掃工場の工夫	法やきまり	資源回収の決まり	その他
児童数(30人中)	10	13	2	1	4
調査方法	地域観察	工場見学	資料	資料	—

地域社会について様々な立場で考え、公正に判断するためには、根拠となる知識に偏りが生じるのは望ましくない。資料の提示の仕方や、学習計画の構成を工夫する必要があると考えられる。

## 我が国の国土や産業に関心をもち、 見通しをもって問題解決ができる指導の工夫

### I 研究主題設定の理由

本分科会で行った実態調査（第5学年149名）から9割の児童が社会的事象に関心をもち、学習に取り組んでいることが分かった。その反面、3割の児童が学習問題をどのように追究すればよいか分からなかったり、必要な情報を見つけて主体的に調べることに苦手意識をもちたりしていることも分かった。つまり、学習問題を追究していく過程で、導入の段階で高まった関心が低下しているという実態がうかがえる結果となった。

そこで、本分科会ではこれらの実態を受け、児童に「学習の見通し」をもたせることに焦点を当てて研究を行うこととし、児童に「学習問題の追究を方向付ける視点」と「学習の方法における見通し」をもたせることが必要であると考えた。これらの手立てをもって指導することで、児童は意欲を持続させながら、主体的に学習問題を追究していけるのではないかと考えた。

本分科会では、「学習問題の追究を方向付ける視点」とは、教師が学習指導要領を基に、児童に習得させたい知識を分類・整理して設定するものであると定義した。この視点をもたせるためには、まずは教師が学習指導要領の内容を整理して、児童に習得させたい知識を分類する必要がある。教師が学習指導要領の「内容」に例示されている児童に習得させたい知識を確認して、例えば、生産の工夫に関わること、開発に関わること、運輸の働きに関わることなどと、分類・整理する。その上で、「生産の工夫」、「開発」、「運輸」といった「学習問題の追究を方向付ける視点」を設け、児童が調べ学習を進める際の方向付けを行うこととした。また、児童に視点をもたせるためには、児童の社会的事象に対する関心を高めるとともに、「学習問題の追究を方向付ける視点」に導いていける導入時の資料選びが重要であると考えた。

「学習の方法における見通し」とは、児童が「どのような視点」をもって「何を」「どのように」調べるのが明確な学習計画を立案することと定義した。児童がこれまでの学習で習得した社会的事象を調べる際の視点は何かを振り返ったり、学習問題に対する予想や理由、調べる方法や根拠になると考えられる資料を「学習計画表」に記入したりすることで、問題解決までの見通しをもつことができると考えた。

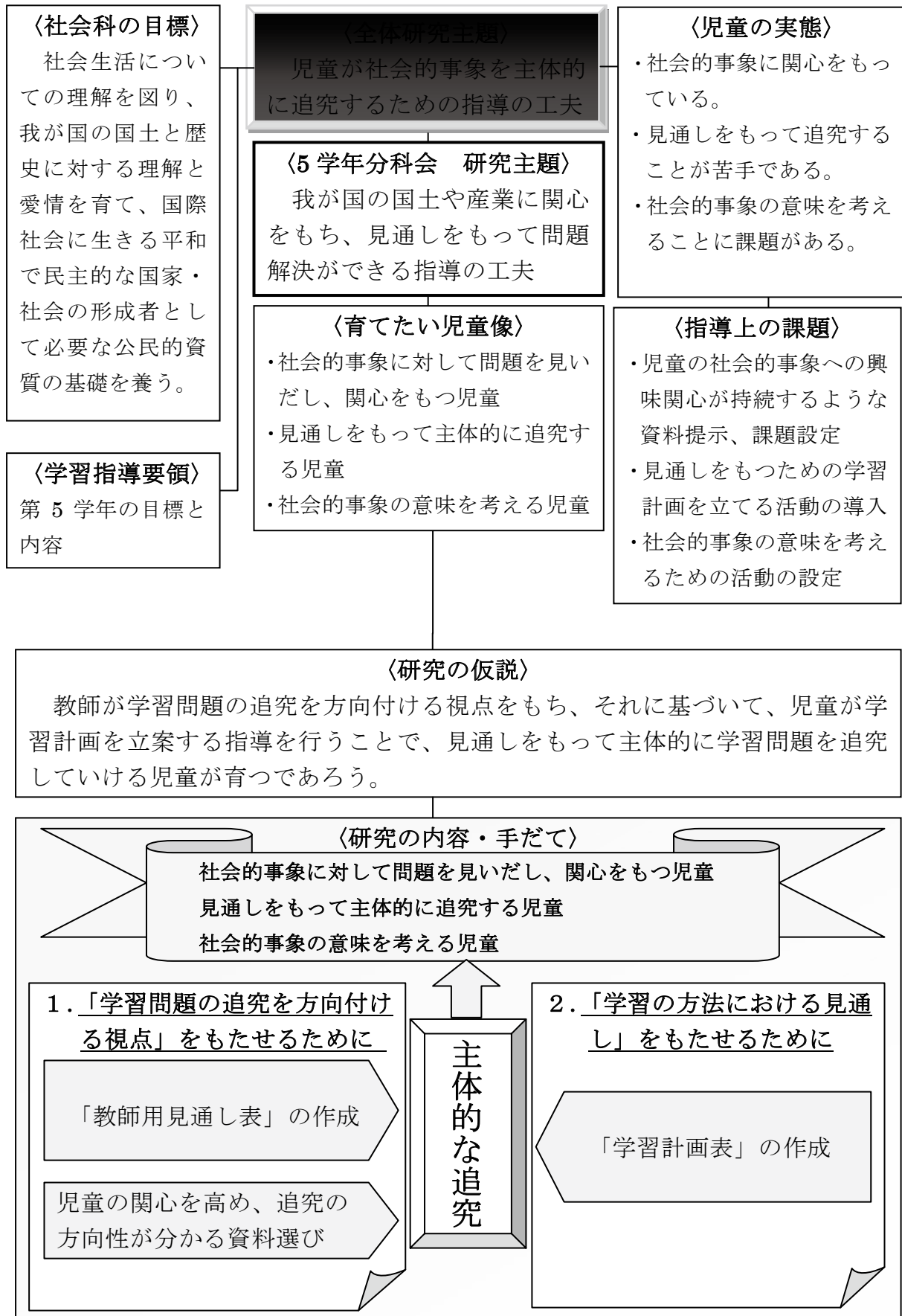
このように、教師が学習問題の追究を方向付ける視点を持ち、それに応じた資料の精選を行うことで、児童は社会的事象に関心をもち、見通しをもって問題解決ができるようになる。そして、児童に学習問題の解決へ向けての見通しをしっかりともち、学習問題を追究する意欲が持続し、児童が主体的に学習を進めていけると考えた。

以上の内容及び全体の研究主題を踏まえ、本分科会では、研究主題を「我が国の国土や産業に関心をもち、見通しをもって問題解決ができる指導の工夫」と設定した。

### II 研究の仮説

教師が学習問題の追究を方向付ける視点を持ち、それに基づいて、児童が学習計画を立案する指導を行うことで、見通しをもって主体的に学習問題を追究していける児童が育つであろう。

### Ⅲ 研究構想図



#### IV 研究の内容

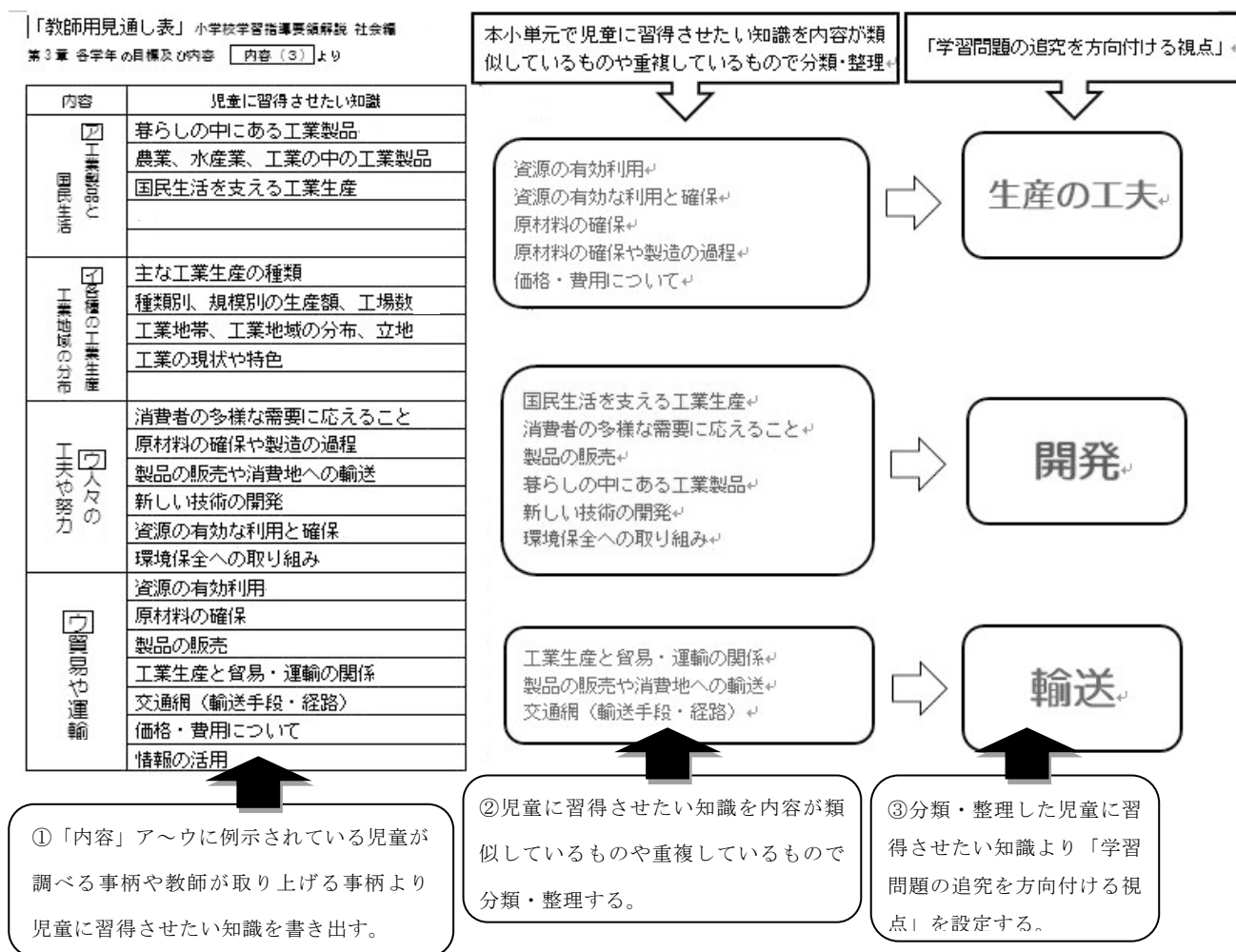
##### 1 「学習問題の追究を方向付ける視点」をもたせるために

###### (1) 「教師用見通し表」の作成

児童に習得させたい知識を、教師が学習指導要領を基に分類・整理した「教師用見通し表」を作成し、「学習問題の追究を方向付ける視点」を設定した。児童がこの「学習問題の追究を方向付ける視点」をもって調べ学習を進めていくことで、習得させたい知識に児童がたどり着くことをねらいとしている。

実践事例「自動車をつくる工業」より「教師用見通し表」作成の手順を以下に示す。

- ① 学習指導要領の「内容」に例示されている事柄より児童に習得させたい知識を書き出す。本小単元ではアからウまでの「内容」があり、ウに関しては、解説が「人々の工夫や努力」と「貿易や運輸」の二つに分かれているので項目もそれに準じて二つに分けている。
- ② ①で書き出した児童に習得させたい知識より、本小単元に関わりのあるものを抜き出して、内容が類似しているものや重複しているもので分類・整理する。
- ③ ②で分類・整理した児童に習得させたい知識を基にして「学習問題の追究を方向付ける視点」を設定する。この際、前小単元までに児童とともに作成した視点を活用する。また、教師はこの視点をもって学習問題を想定する。



(2) 児童の関心を高め、追究の方向性が分かる資料選び

単元の導入で提示する資料は、児童が関心をもって調べたいと思えるもの及び、教師用見通し表で設定した「学習問題の追究を方向付ける視点」へ児童を導けるものとした。

実践事例「自動車をつくる工業」より

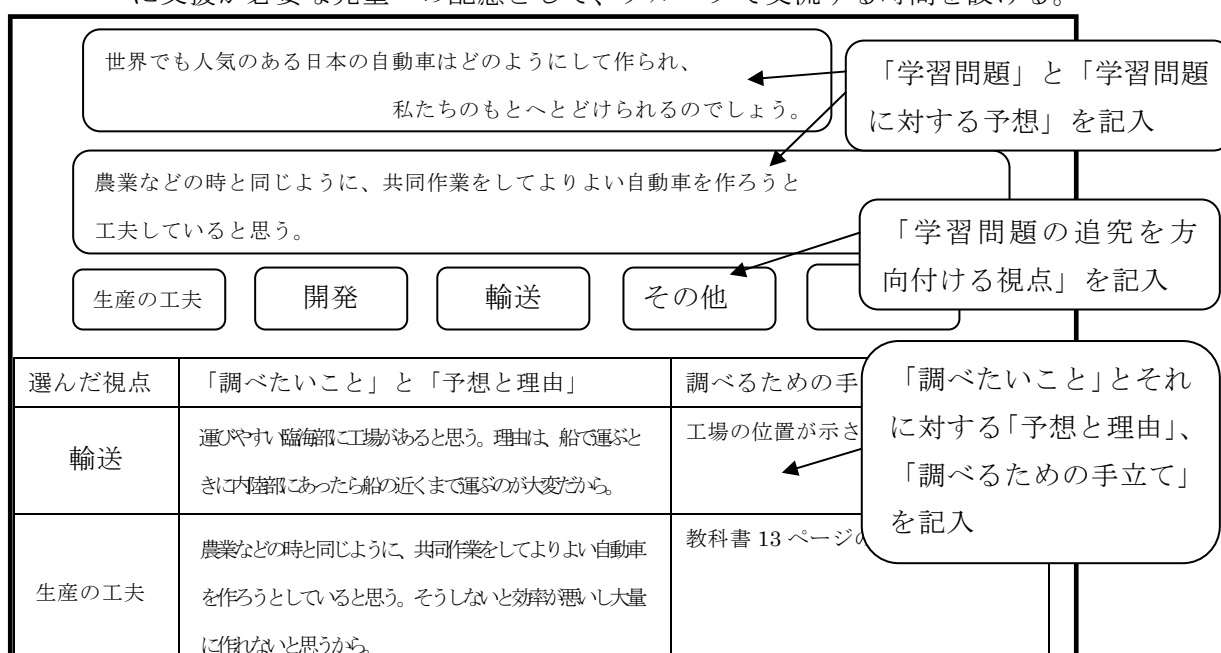
- 消費者の多様な要求に応じている企業のHP…「生産の工夫」「開発」の視点へ
- 日本車の世界での需要が分かる地図や表…「輸送」や「開発」の視点へ
- 世界で支持される日本車の写真…「輸送」や「開発」の視点へ

2 「学習の方法における見通し」をもたせるために

(1) 「学習計画表」の作成

児童に「学習の方法における見通し」をもたせるために、「学習計画表」を作成させた。  
実践事例「自動車をつくる工業」より「学習計画表」作成の手順を以下に示す。

- ① 1時間目に1の(2)で示した資料を基にして児童と共に学習問題を作り、児童一人一人に短冊を渡して「学習問題に対する予想」を書かせておく。学習内容を振り返りながら児童に「学習問題」と「学習問題に対する予想」を学習計画表に記入させる。
- ② 短冊に書かれた児童の「学習問題に対する予想」を黒板で分類・整理する。分類・整理した「学習問題に対する予想」を基に、教師と児童とのやり取りで「視点」を作っていく。「教師用見通し表」で設定した「学習問題の追究を方向付ける視点」の文言と異なるものが児童の意見として挙がることも考えられるので、類義語や類似の表現は許容とする。また、「教師用見通し表」で設定した「学習問題の追究を方向付ける視点」以外のものが児童から挙げた場合、追究の視点として妥当なものであれば取り上げることにする。教師が意図する「学習問題の追究を方向付ける視点」が挙がらない場合には教師から提示する準備もしておく。
- ③ 児童は自分が特に追究していきたい視点と調べたいことを決め、それに対する予想や理由、調べるための手立てを記入する。予想や理由、調べるための手立てが書けずに支援が必要な児童への配慮として、グループで交流する時間を設ける。



【「自動車をつくる工業」における「学習計画表」】

V 研究内容 実践事例「自動車をつくる工業」(10時間扱い) □ 児童の反応 [ ] 考察

時	ねらい	○学習活動	●研究の内容 ・児童の反応 ※資料
つかむ	私たちの生活を支える自動車をつくる工業に関心を持ち、学習問題を見だし、予想をする。	○ハイブリッドカーやラリーで砂漠を走る日本車の写真を見たり、消費者のニーズに合わせた車づくりをしていることを知ったりすることで、自動車工業に関心をもつ。	●児童の関心を高め、追究の方向性が分かる資料選び(「学習問題の追究を方向付ける視点」につながる資料の提示) ※車のオーダーシート (生産の工夫)につながる資料) ・こんなにたくさんの種類から選べるのはお客さんに満足してもらうためだと思う。 ・買う人に合った車を作っている。 ※ハイブリッドカーの写真 (開発)につながる資料) ・環境にやさしい車のことだ。 ・電気自動車というのもある。 ※ラリーで砂漠を走る日本車の写真 (生産の工夫 輸送)につながる資料) ・丈夫そうな車だな。
		<p>提示資料【ラリーで砂漠を走る日本車の写真】</p> <p>「学習問題の追究を方向付ける視点」につながる資料を提示した後、学習問題につながる資料を見せたことで、なぜそんなに売れるのか、何かすごい性能があるのではないかな、などの活発な意見が出た。さらに既習の単元での学習問題を想起させながら「どのように作られるのか」「どのように届けられるのか」という疑問を導き出した。</p> <p>○日本の自動車の販売台数が世界で一位であるという事実から疑問を持ち、それをもとに学習問題を考える。</p>	<p>提示資料【世界自動車メーカー販売台数ランキング】</p> <p>※世界自動車メーカー販売台数ランキング(学習問題につながる資料) ・どうしてこんなに売れているのだろうか。 ・ほかの国にはない特別な性能があるのだろうか。 ・農業の時のように作り方に工夫があるのかもしれない。 ・農業や漁業の時と同じようにどうやって届けられるのかも考えたほうが良いのではないかな。 ・世界でも売られているのかな?</p>
		○学習問題	
		○学習問題についての予想をする。	既習の視点を生かすことによって児童は視点に沿った予想を立てることができた。
	A児 ・世界にも輸出されているだろうから船で運ぶのではないかな。	B児 ・漁業のように生産者から直接届けられるのではなく様々な働きをする人たちがいて自分たちのもとに届けられると思う。	C児 ・パーツを作り、最後に合体させて作ると思う。

順位	自動車メーカー	国名	販売台数
1位	トヨタ自動車	日本	975万台
2位	GM	アメリカ	929万台
3位	VW	ドイツ	907万台
4位	日産・ルノー	日本・フランス	810万台
5位	現代・起亜自動車	韓国	712万台
6位	フィアット・クライスラー	イタリア・アメリカ	585万台
7位	フォード	アメリカ	566万台
8位	ホンダ	日本	406万台
9位	プジョー・シトロエン	フランス	282万台
10位	スズキ	日本	266万台



	2	<p>学習計画を立て、今後の学習の見通しをもつ。</p> <p>○学習問題についての予想を分類し、調べるための視点を話し合う。 ○選んだ視点について調べるために必要な資料を考える。</p>	<p>●「学習計画表」の作成</p> <p>農業や漁業での学習計画表と比べると、調べるために必要な資料を具体的に考えられるようになった。</p>																				
	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">A児</th> </tr> <tr> <td>視点</td> <td>予想と理由</td> </tr> <tr> <td>輸送</td> <td>製品を運びやすい臨海部にあると思う。</td> </tr> <tr> <td>生産の工夫</td> <td>たくさん作るためにいくつかの工場に分担していると思う。</td> </tr> </table>	A児		視点	予想と理由	輸送	製品を運びやすい臨海部にあると思う。	生産の工夫	たくさん作るためにいくつかの工場に分担していると思う。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">B児</th> </tr> <tr> <td>視点</td> <td>予想と理由</td> </tr> <tr> <td>輸送</td> <td>いろいろな人が関わって製品が運ばれてくると思う。</td> </tr> </table>	B児		視点	予想と理由	輸送	いろいろな人が関わって製品が運ばれてくると思う。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">C児</th> </tr> <tr> <td>視点</td> <td>予想と理由</td> </tr> <tr> <td>生産の工夫</td> <td>たくさんのパーツを作り、最後に合体させると思う。</td> </tr> </table>	C児		視点	予想と理由	生産の工夫	たくさんのパーツを作り、最後に合体させると思う。
A児																							
視点	予想と理由																						
輸送	製品を運びやすい臨海部にあると思う。																						
生産の工夫	たくさん作るためにいくつかの工場に分担していると思う。																						
B児																							
視点	予想と理由																						
輸送	いろいろな人が関わって製品が運ばれてくると思う。																						
C児																							
視点	予想と理由																						
生産の工夫	たくさんのパーツを作り、最後に合体させると思う。																						
調べる	<p>3 4</p> <p>自動車が生産されて、消費者のもとへ届くまでの過程でどのような工夫がされているのかを調べる。</p>	<p>○それぞれの学習計画にそって、グループごとに調べ活動を行う。</p> <p>調べる視点 <u>生産の工夫</u> <u>開発</u> <u>輸送</u></p>	<p>自ら立てた学習計画表に沿って調べ活動を行ったので大変意欲的に活動する姿が見られた。また、一人では調べ活動が難しい児童も同じ視点の友達と活動することで、意欲の持続につながった。さらにB児のように調べ活動を進める中で初めの視点が広がって他の視点についても考える児童が出てきた。</p>																				
	<p>5</p> <p>自動車生産にかかわる様々な工夫を理解する。</p>	<p>○グループごとに調べて分かったことを交流する。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="300 1621 555 2007"> <p>A児 <u>生産の工夫</u></p> <p>・生産の工夫としてロボットを使うことは分かったが、その理由は効率よく作るということと危険な作業だからなのではないかと思うから、詳しく調べたい。</p> </td> <td data-bbox="555 1621 932 2007"> <p>B児 <u>生産の工夫</u></p> <p>・組み立てラインの上で作業を分担したり、指示ビラを確認したりしているから正確に作れることが分かった。組み立て工場だけでなく部品を作っている組み立て工場でも工夫をしていることも分かった。</p> </td> <td data-bbox="932 1621 1516 2007"> <p>C児 <u>生産の工夫</u></p> <p>・車の作り方は分かったので、実際に見て確かめたい。</p> </td> </tr> </table>	<p>A児 <u>生産の工夫</u></p> <p>・生産の工夫としてロボットを使うことは分かったが、その理由は効率よく作るということと危険な作業だからなのではないかと思うから、詳しく調べたい。</p>	<p>B児 <u>生産の工夫</u></p> <p>・組み立てラインの上で作業を分担したり、指示ビラを確認したりしているから正確に作れることが分かった。組み立て工場だけでなく部品を作っている組み立て工場でも工夫をしていることも分かった。</p>	<p>C児 <u>生産の工夫</u></p> <p>・車の作り方は分かったので、実際に見て確かめたい。</p>																	
<p>A児 <u>生産の工夫</u></p> <p>・生産の工夫としてロボットを使うことは分かったが、その理由は効率よく作るということと危険な作業だからなのではないかと思うから、詳しく調べたい。</p>	<p>B児 <u>生産の工夫</u></p> <p>・組み立てラインの上で作業を分担したり、指示ビラを確認したりしているから正確に作れることが分かった。組み立て工場だけでなく部品を作っている組み立て工場でも工夫をしていることも分かった。</p>	<p>C児 <u>生産の工夫</u></p> <p>・車の作り方は分かったので、実際に見て確かめたい。</p>																					

6 7	自動車工場を見学し、働いている人たちの工夫や工場の仕組みについて調べる。	○自動車工場を見学し、自分たちが調べたことを確かめるとともに、働いている人の工夫や苦勞、自分たちが解決できなかった疑問点について調べる。	<p>調べたことをグループで交流することで調べていない視点についても理解できるようにした。しかし、児童によっては友達との交流だけでは確実に理解できないこともあるので、更なる工夫が必要と考える。</p> <p>工場の見学においても、調べる視点を意識しながら見学、インタビューをすることができた。</p>
8	自動車工場で働いている人たちの工夫や工場の仕組みについて考える。	○見学してわかったことをまとめる。	<p>この段階では調べる視点についての理解があるので、計画を立てる段階では出てこなかった環境についての取り組みや工場の立地についても考えることができた。</p>
<b>A児生産の工夫</b> ・予想通り、危険な作業の時にも機械を使っていた。また、工場では環境のことを考えた様々な取組をしていた。だから、消費者も環境のことをもっと考えるべきだと思う。		<b>B児車の開発</b> ・環境のことを考えて100%リサイクルできる車を作ろうとしていることがわかった。	<b>C児生産の工夫</b> ・流れ作業で生産していた。働く人が作業しやすくするための工夫もたくさんあった。
まとめる	9 自動車づくりをはじめ、今後の工業生産では社会や消費者のことを考えた開発が大切なことが分かる。	○安全についての対策や消費者のニーズに合った製品の研究開発などについて調べ、これからの工業生産に大切なことを話し合う。	
<b>A児生産の工夫</b> ・生産者は消費者の安心や安全、そして環境のことも考えて生産している。だから、わたしたちも環境によい車を使ったりカーシェアリングをしたりして、生産者とながらなければならないのではないだろうか。		<b>B児開発</b> ・生産者は消費者のニーズに合わせた車づくりをしていた。これからはさらに効率よく、安全や環境のことを考えた車をつくっていくだろう。	<b>C児生産の工夫</b> ・たくさん売れるようにすごい機能をもった車をつくっていた。たくさんつくった車は船で運ばれている。
10	学習問題について調べてきたことをまとめる。	○自動車工場の生産の仕組みや技術開発の取り組み、運輸の働きなどについて関係図にまとめ、これからの日本の工業について考える。	<p>関係図にまとめる際も調べる視点をもとに考えたので、まとめを書くことが苦手な児童もすすんで活動することができた。</p>
<b>学習問題に対する自分の考え</b> 日本の自動車工業では、効率よく正確につくるための工夫や努力を行って優れた製品を生産し届けている。また、社会や消費者のニーズに応えるために資源の有効な利用や環境保全にも取り組み、国民の生活を支えている。			
<b>A児の学習問題に対する自分の考え</b> 日本の自動車工業では、様々な工夫をして社会や消費者のニーズに合わせた車作りをし、日本の各地や世界へと届けていた。このように消費者と自動車工業には深い関係があるのだ。だから、これからも社会や消費者のニーズに合わせた色々な開発をしていこう。			

## VI 成果と課題

### 1 研究の成果

- 「教師用見通し表」を作成したことで、教師は学習指導要領の「内容」より、児童に習得させたい知識を明確に捉えて指導に当たることができた。また、「教師用見通し表」で児童に習得させたい知識を分類・整理して「学習問題の追究を方向付ける視点」を設定したことで、児童にどのような視点をもたせて学習を進めていけばよいのか見通しをもつことができ、資料選びや学習問題作りを視点に沿って円滑に行うことができた。
- 単元の導入で児童の関心を高め、追究の方向性が分かる資料を用意したことで、児童は進んで問題を見だし、「学習問題の追究を方向付ける視点」に沿った学習問題に対する予想を立てることができた。本実践では、「生産の工夫」「開発」「輸送」の3つの視点に児童を導くための資料を提示した。それにより、児童の関心を高めるとともに教師のねらいとする方向に児童の思考を導くことができた。また、既習の単元で獲得した「学習問題の追究を方向付ける視点」を活用する児童の姿も見られた。

・より丈夫で安全な車を作るために検査を厳しくしていると思う。⇒「**生産の工夫**」の視点  
・「自動車工業では速く正確に作ったり働く人の体調まで気遣ってミスを少なくしたりする生産の工夫がすごいと思いました。そういった生産の工夫が、どの産業でもその産業が盛んになっていくために大事だと思いました。アイデアを出し合うのは大変だけれども、それを考えるのが楽しいのかなと思いました。」（農業や水産業の学習で獲得した「生産の工夫」の視点を自動車工業の学習で活用した例）

- 児童に「学習計画表」を作らせて、「学習の方法における見通し」をもたせたことで、「学習問題の追究を方向付ける視点」をもってすすんで調べる姿が見られた。児童は「学習計画表」に記入した「学習問題」やそれに対する自分の「予想と理由」「調べるための手立て」を振り返りながら、「どのような視点」をもって「何を」「どのように」調べるのかを常に意識して、調べ学習を進めることができた。

・どうやって海外まで自動車を運ぶのかを調べたい。たぶん船を使って大量に運んでいると思う。船に車を積んでいるような写真や輸出の数がわかるグラフを探したい。  
(「**輸送**」の視点を選んだ児童の「学習計画表」より)

また、実践事例内のA児の学習問題に対する自分の考えに表れているように、学習のまとめで「学習計画表」を振り返り、学んだことを共有することで、児童は自分が特に追究してきた視点以外の視点からも学習問題について考えることができた。

### 2 研究の課題

- ◇ 年間指導計画を立てる際に、「学習問題の追究を方向付ける視点」を全ての単元において設定することが必要である。視点を生かせる単元同士のつながりを考慮した年間指導計画を作成することが課題として挙げられる。
- ◇ 児童に「学習問題の追究を方向付ける視点」から自分が特に追究していきたい視点をもたせて、個別に調べ学習をすすめていく学習の仕方は、時数や資料の準備の観点から、適用が難しい単元もある。自分が特に追究していきたい視点をもたせた上で、それぞれの視点を全員で順番に追究していく学習の仕方でも、児童が学習問題を主体的に追究できるか検証していくことが課題として挙げられる。

**歴史や政治、国際理解に関心をもち、  
社会的事象の意味をより広い視野から考える学習指導の工夫**

**I 研究主題設定の理由**

本分科会では、児童が「自ら社会的事象に関心をもち、意欲的に調べ、意味を考え表現する」ためには、何が必要であるかを把握するために、第6学年の児童167名に実態調査を行った。実態調査の結果は、「社会科の授業はとても楽しい」「社会科の授業はどちらかといえば楽しい」と回答した児童が8割を占めた。一方で、社会科の学習の意欲が単元の最後まで持続しない児童が6割程度いるという実態も見られた。また、「複数の情報を比べたり、結び付けたりしている」「調べて分かったことや考えたことを、自分なりにまとめている」という質問に対して、「苦手」「どちらかと言えば苦手」と回答した児童は6割を占めた。本分科会ではこれらの結果を、児童は導入の段階で社会科の学習に関心をもち、意欲的に取り組んでいるが、その関心が単元を通して持続しにくい傾向があること、そして、複数の情報を比較や関連、総合して考える経験が少ないため、社会的事象の意味を考えることに苦手意識があると分析した。

つまり、児童が「主体的に追究」するようになるためには、単元を通して児童に関心をもたせるための指導の工夫及び、社会的事象の意味を考えさせるための指導の工夫を行っていくことが必要であると捉えた。

更に、小学校学習指導要領第2章第2節社会では、第6学年の能力に関する目標において、「社会的事象をより広い視野から考える力」を育てることが示されている。そのため、児童に社会的事象を「より広い視野」から考えさせることは、児童に主体的に追究する楽しさを味わわせることにつながると考え、上記の分科会主題を設定した。

本分科会では、分科会主題に迫るために二つの手だてが有効であると考えた。

一つは、児童に単元を通して社会的事象への関心を持続させるために、学習した内容を振り返り、次の学習を見通す活動を計画的に設定したことである（＝振り返り①）。この活動を取り入れることにより、児童は次時の学習で何を解決しなければならないか明確に意識できることで、主体的に追究することの楽しさに気づき、関心が持続すると考えた。また、教師は児童が学習した内容や学習の中で見いだした疑問を把握することができるため、次時の学習内容につながる児童の考えや疑問をふまえた教材研究や授業の構築が可能となり、より児童の実態に即した学習を展開することができると思った。

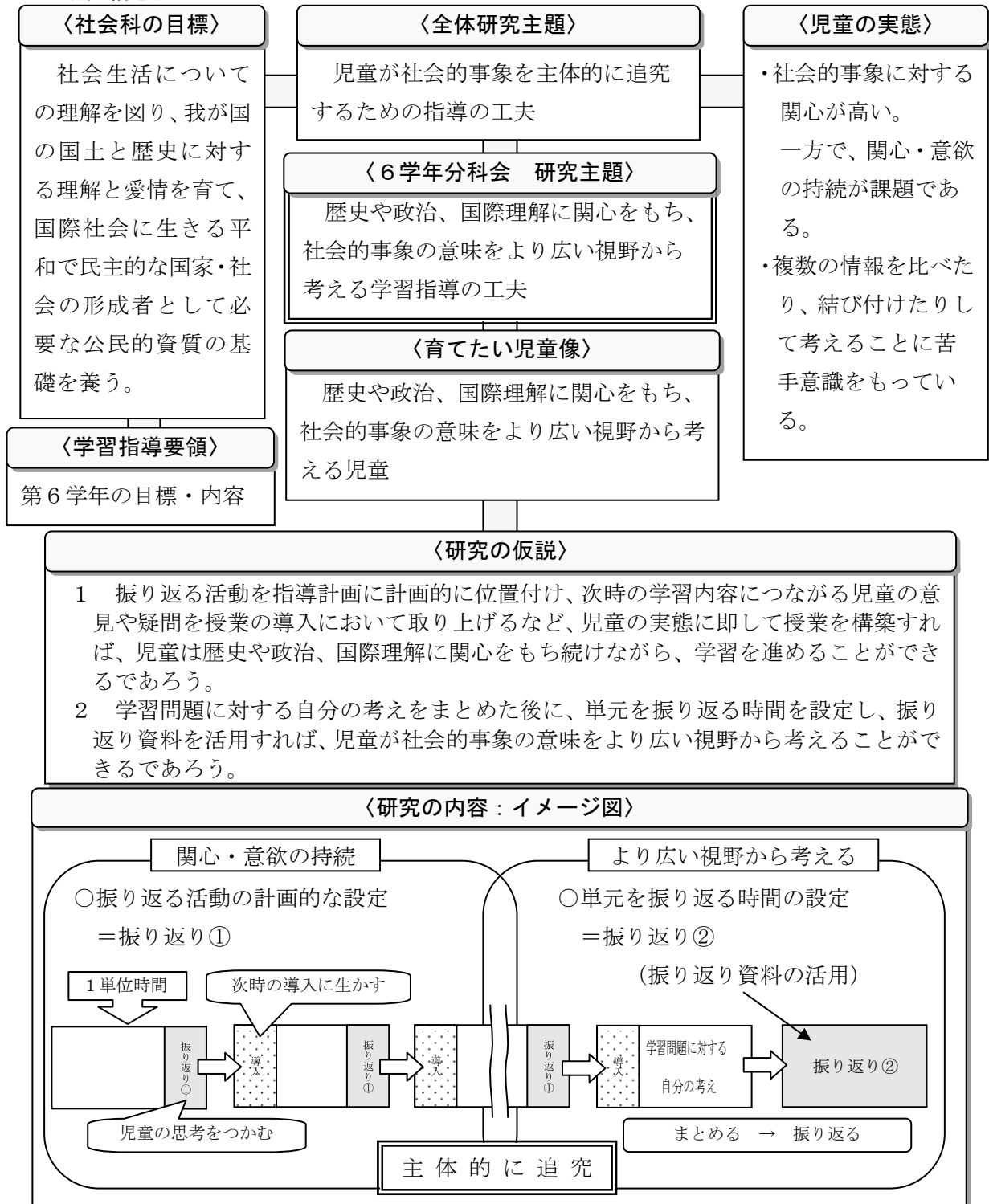
二つは、児童に社会的事象の意味をより広い視野から考えさせるために、学習問題に対する自分の考えをまとめた後に、単元を振り返る時間を設定したことである（＝振り返り②）。この活動を取り入れたことにより、児童は学習問題に対する自分の考えをまとめた後に、再度、単元を振り返ることができるため、社会的事象の意味をより広い視野から考えることができると考えた。

これらの二つの手だてを通して、児童に主体的に追究する楽しさを味わわせることができると考え、実践を行っていくこととした。

## II 研究の仮説

- 1 振り返る活動を指導計画に計画的に位置付け、次時の学習内容につながる児童の意見や疑問を授業の導入において取り上げるなど、児童の実態に即して授業を構築すれば、児童は歴史や政治、国際理解に関心をもち続けながら、学習を進めることができるであろう。
- 2 学習問題に対する自分の考えをまとめた後に、単元を振り返る時間を設定し、振り返り資料を活用すれば、児童が社会的事象の意味をより広い視野から考えることができるであろう。

## III 研究構想図



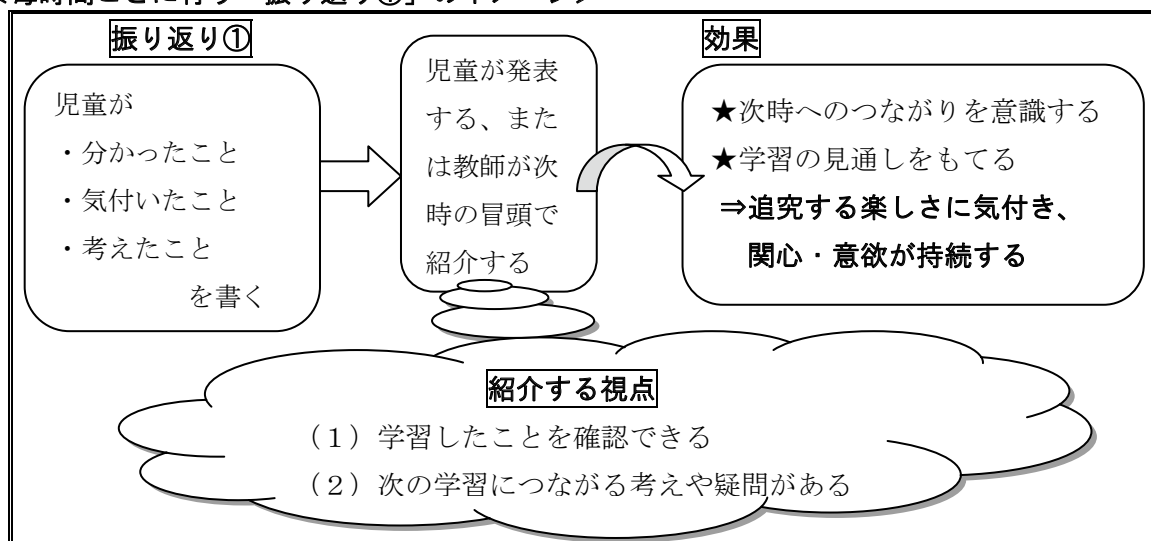
#### IV 研究の内容

##### 1 関心・意欲を持続させるための指導の工夫

～振り返る活動の計画的な設定～

本分科会では、児童の関心・意欲を小単元を通して持続させ、主体的な学びへつなげるためには、児童に社会的事象を追究する楽しさに気付かせる必要があると考えた。そのための手だてとして、毎時間ごとに学習した内容を振り返る活動（「振り返り①」）を設定することとした。児童に次時へのつながりを意識させ、学習の見通しをもたせるために、考えや疑問を引き出し、全体で共有していくこととした。

##### <毎時間ごとに行う「振り返り①」のイメージ>



##### 2 社会的事象の意味をより広い視野から考えるための指導の工夫

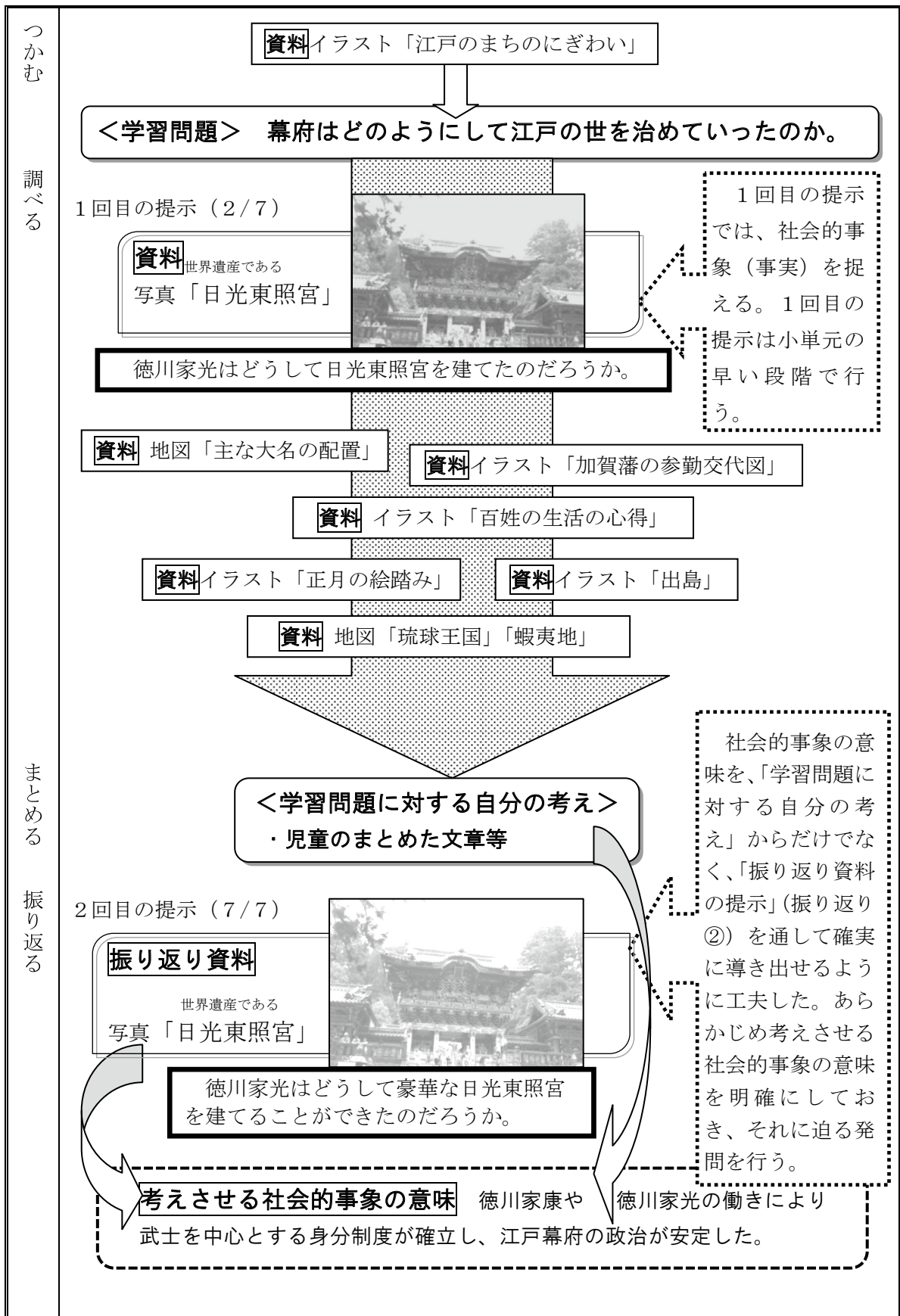
###### (1) 社会的事象の意味をより広い視野から考えさせる時間の設定

社会科における問題解決的な学習過程においては、「まとめる」段階で学習問題の答えを導き出し、社会的事象の意味をつかむことになっている。本分科会ではそれに加えて、「振り返る」段階を設定し、さらに社会的事象の意味を考える時間を設けることとした（「振り返り②」）。このように、複数の情報を比較・関連、総合して社会的事象の意味を考える経験を重ねることで、児童が社会的事象の意味をより広い視野から考えることができると考えた。

###### (2) 「振り返り資料」の活用

本分科会では、「振り返り②」において、社会的事象の意味をより広い視野から考えるために、「振り返り資料」を活用することとした。学習問題を見いだす際、または学習問題を追究する際に用いる資料の中から「振り返り資料」を1つ設定し、小単元の中で2回程度繰り返して用いる。「振り返り資料」は最初の提示においては、事実を捉えるために用いられるが、2回目の提示では小単元を通して学んできたことをもとに、社会的事象の意味を考えていくためのものとなる。小単元の最後に、初めには見えなかったことに気づき、考えを深める経験をするすることで社会科学習の楽しさを味わうことができ、それが主体的な学びへつながっていくと考えた。

＜社会的事象の意味をより広い視野から考える「振り返り②」のイメージ＞



V 実践事例


	ねらい	○主な学習活動	●研究の内容 【資料】 ・児童の反応
つかむ	①江戸のまちなぎわいの様子をみて話し合い、学習問題を立てる。	○学習問題を話し合っ立てる。	<p>【江戸のまちなぎわい (イラスト)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>江戸のまちが栄えたのはなんでだろう。</li> <li>徳川家はすごい!</li> </ul> <p>《学習問題》幕府はどのようにして江戸の世を治めていったのか。</p> <p>●関心・意欲を持続させるための指導の工夫</p> <p>A 児…なんで260年も続いたのか知りたい。 次時に紹介(2) 考えや疑問</p>
調べる	②徳川家光が日光東照宮を建てた理由を予想する。	○徳川家光はどうして日光東照宮を建てたのかを話し合う。	<p>●2 社会的事象の意味をより広い視野から考えるための指導の工夫</p> <p>【振り返り資料(1回目)日光東照宮】</p> <p>徳川家光はどうして日光東照宮を建てたのだろうか。</p> <p>●2 より広い視野から社会的事象の意味を考えるための指導の工夫について</p> <p>1回目の提示では、社会的事象(事実)を捉える。ここでは特別活動で学んだことや特別活動の事前調べ学習で得た事実が根拠となっている。</p> <p>振り返り資料 二回目へ</p> <p>・家康の遺言により建てた。</p> <p>・家康の偉大さを示す。</p> <p>・規模が小さかったから大きくしたと聞いた。</p> <p>●関心・意欲を持続させるための指導の工夫</p> <p>B 児…他の大名は幕府に反感をもったのだろうか。 次時に紹介(2) 考えや疑問</p>
	③江戸幕府の大名支配の仕組みについて理解する。	○江戸幕府が、どのようにして大名を支配していったのかを調べる。	<p>【主な大名の配置(地図) 加賀藩の参勤交代図(イラスト)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>將軍は裏切るかもしれないから外様大名を遠くにしたと思う。</li> <li>大名の中には悔しい人もいたと思う。</li> <li>関ヶ原の戦いにおける立場で大名配置が決まった。</li> </ul> <p>●関心・意欲を持続させるための指導の工夫</p> <p>B 児…三代將軍家光が江戸の政治をつくっていったことがわかった。 (1) 学習したことの確認</p> <p>C 児…大名や武士以外の人たちはどうしたのかな? 次時に紹介(2) 考えや疑問</p>
	④幕府が身分制度によって農民や町人などを支配したことを読み取り、まとめる。	○江戸幕府が、どのようにして百姓や町人を支配していったのかを調べる。	<p>【百姓の生活の心得(イラスト)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幕府は心得などの決まりをつくって支配した。</li> <li>五人組などの責任を負わされて苦しかったと思う。</li> </ul> <p>●関心・意欲を持続させるための指導の工夫</p> <p>C 児…大変な暮らしをしている人がいた。他にもそういった人がいたのかな。 次時に紹介(2) 考えや疑問</p>

**1 関心・意欲を持続させるための指導の工夫について**

学習した内容を振り返る活動を設定した。それを次時の導入で紹介し合い、学級全体で共有することで、問題解決的な学習を連続させることができた。このことにより、追究する楽しさを味わうことができ、関心が持続したと考える。

それとともに授業の中で児童がどのように考えたかを、教師が把握することにもつながった。振り返り①での児童の発言が、そのまま次時のねらいになることもあった。



	<p>⑤ 鎖国政策が国内にあたえた影響を理解する。</p>	<p>○江戸幕府が、どのようにしてキリスト教を支配していったのかを調べる。</p>	<p>【正月の絵踏み・出島（イラスト）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教信者は不満をもったと思う。</li> <li>・貿易の利益を幕府が独占できた。</li> </ul> <p>●<b>関心・意欲を持続させるための指導の工夫</b></p> <p>B 児…オランダと貿易したのはなぜ？  <input type="text"/>次時に紹介（2）考えや疑問</p>
<p>まとめる</p>	<p>⑥ 鎖国の間も、様々な形で外国との交流が行われていたことが分かる。学習問題についてまとめる。</p>	<p>○江戸幕府が鎖国している間、海外との交流はどのように行われていたのかを調べる。</p> <p>○学習問題について話し合っ てまとめる。</p>	<p>【琉球王国・蝦夷地（地図）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎖国の時にも交流はしていることがわかった。</li> </ul> <p>●<b>関心・意欲を持続させるための指導の工夫</b></p> <p>A 児…参勤交代で大名を支配するだけでなく、経済も発展させたから江戸幕府はえらいと思う。  <input type="text"/>（1）学習したことの確認</p> <p>B 児…武士や大名、町人などを厳しく取り締まったことがわかった。  <input type="text"/>次時に紹介（2）考えや疑問</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">     &lt;学習問題に対する自分の考え&gt;参勤交代、鎖国、身分制度などの政策によって江戸幕府は 士による政治を 定させていった。   </p>
	<p>⑦ 江戸幕府の支配についての社会的事象の意義を考え、適切に表現する。</p>	<p>○振り返り資料を活用して、江戸幕府の支配についての自分の考えを表現する。</p>	<p>●<b>2 社会的事象の意義をより広い視野から考えるための指導の工夫</b></p> <p>【振り返り資料（2回目）日光東照宮】</p>  <p>徳川家光はどのようにして豪華な日光東照宮を建てることができたのだろうか。</p>
			<p>●<b>2 より広い視野から社会的事象の意義を考えるための指導の工夫について</b></p> <p>2回目の振り返り資料の提示を通して社会的事象の意義を確実に導き出せるようにした。「調べる」段階で学んだことを比較・関連、総合させて社会的事象の意義を考えることができた。</p> <p>例えば、参勤交代による大名統制を行ったり、貿易の制限を行ったりすることができた幕府の権力の強さと、東照宮の豪華さをつなげることができた。「伊達政宗が寄付した灯籠」は移動教室で得た知識であったが、それも権力の象徴であると捉えることができた。加えて1回目の提示では「家康の権力の大きさ」や「家光が建て直した」という事実を捉えるだけだったが、2回目の提示では「日光東照宮が現在にも受け継がれている」という今に残る文化遺産としても捉えることができた。それらがより広い視野から考えることにつながったと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参勤交代により、大名の統制がより強くなったと思う。</li> <li>・貿易を制限して利益を上げた幕府はすごいと思う。</li> <li>・伊達政宗が寄付した灯籠もあった。やっぱり権力がすごかったんだ。</li> <li>・江戸幕府を安定させたのは家光の力。日光東照宮は、家康だけでなく家光や幕府の権力の象徴にもなっていたんだと思う。それが今も残っているというのはすごいと思う。</li> </ul>

## VI 成果と課題

### 1 研究の成果

- 1時間の授業の終わりに、毎回視点に沿って振り返る時間を設定し、振り返りを次時の導入に生かしたことで、児童は学習のつながりを意識したり、見通しをもったりすることができた。そのことにより、問題解決的な学習の連続性を保つことができたと考える。「次は〇〇をしたい。」「もっと□□を調べたい。」と、単元を通して関心・意欲を持続させることにつながった。

#### <児童の姿>

- ・農民たちは、百姓の心得や五人組や身分制度などによって支配されていたことが分かった。**(1) 学習したことの確認**
- ・参勤交代で大名を支配していた。百姓や他の人たちはどうやって支配していたのか調べたい。**(2) 次の学習につながる考えや疑問**

- 単元を振り返る時間を設定し、振り返り資料を活用したことで、児童は、学習問題に対する自分の考えを再確認し、社会的事象の意味を捉え直すことができたと考える。

#### <1回目の読み取り>

##### **社会的事象（事実）を捉える。**

- ・家康の遺言を聞いて建てた。
- ・家康の偉大さを示す。
- ・規模が小さかったから大きくしたと聞いた。

#### <学習問題に対する自分の考え>

- ・参勤交代や鎖国、身分制度などの政策によって江戸幕府は武士による政治を安定させていった。

#### <2回目の読み取り及び単元を振り返る時間における児童の姿>

##### **小単元を通して学んできたことを基に振り返り、社会的事象の意味を考えていく。**

- ・江戸幕府を安定させたのは家光の力。日光東照宮は、家康だけでなく家光や幕府の権力の象徴にもなっていたと思う。それが今も残っているのはすごいと思った。

### 2 研究の課題

- 振り返り①では、学習過程や形態に応じて、振り返りの内容や紹介方法を更に工夫していく方向性も考えられる。よりよい振り返り①の在り方を探っていきたい。
- 振り返り資料の2回目の読み取りにおいて、1回目に読み取った内容とあまり変容が見られない児童も若干名いた。社会的事象の意味を考えさせるために、どのような発問が効果的であるか、検証を重ねていく必要がある。

# 平成25年度 教育研究員名簿

## 小学校・社会

### 中学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
千代田区	千代田区立番町小学校	主任教諭	大野 亮
目黒区	目黒区立碑小学校	教諭	○ 松村 隆寛
渋谷区	渋谷区立笹塚小学校	主任教諭	北川 大樹
葛飾区	葛飾区立清和小学校	教諭	熊取谷 壮志
国立市	国立市立国立第五小学校	主任教諭	高橋 恭一

### 第5学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
江東区	江東区立越中島小学校	主任教諭	江泉 清香
杉並区	杉並区立済美小学校	教諭	渡邊 翠大
板橋区	板橋区立中台小学校	主任教諭	◎ 國長 泰彦
昭島市	昭島市立田中小学校	主幹教諭	加藤 寛
東村山市	東村山市立久米川東小学校	主任教諭	○ 西山 智

### 第6学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
新宿区	新宿区立戸山小学校	教諭	河野辺 貴則
江戸川区	江戸川区立清新第三小学校	主任教諭	磯貝 和裕
八王子市	八王子市立横山第一小学校	主任教諭	○ 大谷 千尋
武蔵野市	武蔵野市立桜野小学校	主任教諭	田中 裕介
小平市	小平市立小平第八小学校	主任教諭	安部 峰

◎全体世話人 ○分科会世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事 秋田 博昭

平成25年度

教育研究員研究報告書

小学校・社会

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成25年度第193号〕

平成26年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6836  
印刷会社 昭和商事株式会社